日刊岩手建設工業新聞
（昭和32年3月30日 第3種郵便物認可）

国道46号など整備促進を

道路関係横軸2団体 関係機関に要望展開へ

宮古盛岡横断道路高規格化・指定区間編入

道路関係横軸2団体の合同総会

促進期成同盟会、宮古・盛岡・秋田間国道整備促進期成同盟会（会長・中村尚道宮古市長）の道路関係横軸2団体はこのほど、25年度の合同総会を盛岡市の盛岡グランドホテルで開き、25年度事業計画などを決定した。2団体は国道13号、46号、106号の整備促進や高規格化などに関して、政府与党や国などの関係機関に要望を実施する。

総会には国道13号、46号、106号における岩手、秋田両県の沿線市町村長や議会議長ら約20人が出席。来賓として両県、東北地方整備局の岩手河川国道事務所、秋田河川国道事務所、三陸国道事務所、国会議員、県議会議員の関係代表者らが出席した。

両同盟会を代表し、中村会長は「日本海と太平洋をつなぐ横軸道路の整備は、災害に強いネットワークを構築していくことにもつながることから高規格化が必要だ。各市町村や県などと協力して要望活動を粘り強く行っていきたい」として、参加者のさらなる団結を呼び掛けた。

来賓のうち、達増拓也知事（小野寺淳県土整備部道路担当技監代読）は、「国道13号、46号、106号は国土強靱化を推進し、地域交流の円滑化・活発化を図っていく上で極めて重要な道路。全線の高規格化や三陸沿岸道路との一体的な管理、盛岡西バイパスの4車線化事業の早期完成に向け、国に強く働き掛けていく」と述べた。

鈴木健太秋田県知事（近藤雅建設部産業振興統括監代読）は、「国道13号、46号、106号は主要な幹線道路であり、交流人口の拡大などの観点からも地域創生において必要不可欠な路線といえる。シームレスなネットワークの構築は両県の発展に欠くことはできない」と語った。

総会では、25年度の事業計画や収入支出予算案などを審議し、いずれも原案の通り決定した。同国道整備促進期成同盟会の総会では、今後の要望活動に生かすための決議文を全会一致で採択した。

国道3路線は、日本海側から太平洋側までを結ぶ主要な幹線道路として、地域の産業振興や交流、災害発生時の迅速な復旧・復興などを支えている。

これまで両同盟会は、道路の整備促進や高規格化などに関して、関係機関に対する要望活動を連携して実施してきた。25年度においては、政府与党や両県選出国会議員、国土交通省など、関係機関への要望を展開する予定だ。

採択された決議文には、▽田鎖蟇目道路と箱石達曽部道路の整備促進や、計画路線全線の高規格化を図り、災害に強い命の道を国により整備すること▽盛岡秋田道路「生保内～卒田」の計画段階評価を進めるための調査を推進すること▽災害への備えと観光等の経済活動拡大のため、高規格道路のミッシングリンクの解消、高規格道路と直轄国道とのダブルネットワーク化、シームレスネットワーク化などが盛り込まれている。

本宮長田町線で清掃活動

県盛岡土木C級会 社会貢献用のぼり製作

県盛岡土木C級会（吉田将太会長）は9日、一般県道本宮長田町線の杜の大橋から国道46号盛岡西バイパスとの交差点までの区間で道路の清掃活動を実施した。

同C級会では、春・秋の御所湖清掃や北上川の河川清掃、盛岡市内丸の歩道の落ち葉清掃など、多くの社会貢献活動を実施している。

今回の道路清掃は、8月10日の「道の日」にちなんで行われたもので、同C級会活動の柱の一つ。同日は、会員企業の中から28社42人が参加して作業を実施した。

作業を前に吉田会長は、「長期休暇の前にけがをしないよう、安全に留意して作業を行ってほしい」と参加者に呼び掛けた。

同C級会では、社会貢献活動用に「盛岡土木C級会」「地域貢献活動」ののぼりを用意した。ピンクと黄色の蛍光色で、限られた人数で作業する際に交通誘導担当者を置くことができないため、遠くからでも分かりやすい色を選んだという。

杜の大橋を含む本宮長田町線は、盛岡駅西口地区と盛南地区を結ぶ幹線道路。沿道にはショッピングセンターが立ち並び、歩道には美しい植栽が施されている。参加者は歩道だけでなく、樹木の下にあるごみも拾い集めた。また持ち場での活動を終えた参加者らは、集合場所の中央公園内のごみも拾っていた。

本宮長田町線で道路の清掃活動を実施

六戸学園（青森県）を実例に

中大規模木造建築設計技術者等育成講座 講師2人が講演

県はこのほど、中大規模木造建築設計技術者等育成講座木材利用研修会を、盛岡市の岩手教育会館で開催した。講師に、㈱八洲建築設計事務所企画部の木浪長寿統括部長、㈱ANDO Imagineering Group／AIGの安藤耕作代表取締役を招き、木材を活用した校舎整備について講演を行った。

今回の講演の実例として取り上げられたのは、青森県六戸町で4月から供用されている町立義務教育学校六戸学園。町立小学校3校と町立中学校2校を再編した、木造一部鉄骨造の地上3階建てで、校舎、屋内運動場、図書館部分を含めた延べ床面積は1万5490・79平方㍍となっている。

木浪統括部長は「地域と未来を育む、ぬくもりあふれる木造3階建て校舎」、安藤代表取締役は「学校建築を木質構造で作る楽しさ・おもしろさ」と題して講演を行った。

開会に当たり、あいさつに立った県建築士事務所協会の佐々木章会長は「本県はわが国有数の森林県で、戦後植林した木々が伐採時期を迎えている。資源を活用し、環境の良い住まいやまちづくりを実現して、地球環境の保全や低炭素社会の実現に貢献することが重要だ」と述べ、木材利用拡大と木造建築推進への活用に期待を寄せた。

木浪統括部長は、スライドを用いながら建物の概要や工夫について解説。教室の天井に二重天井を採用することで、経済設計や自由な配管が可能になることによって施工性が向上したことなどを紹介した。

安藤代表取締役は、構造の工夫をスケッチや実際の写真を交えて紹介。「六戸という地名にちなみ、六角形の構造を取り入れた」と意匠のコンセプトを紹介し、施工中のエピソードを交えて語った。

講演後に行われた質疑応答では「校舎が利用されなくなった場合、どのような活用を考えているか」「具体的にコストはどの程度かかったのか」といった質問が挙がり、講師が質問に回答した。

中大規模木造建築設計技術者等育成講座

高校生たちが事例発表

岩手大学地域防災フォーラム 次世代の防災と復興へ

岩手大学地域防災研究センター（小笠原敏記センター長）が主催する地域防災フォーラムがこのほど、岩手大学銀河ホールで開かれた。今回のフォーラムは「いわて発、高校生による地域防災・復興」と題して、県内の高校生たちが地域の防災に向けた取り組みを紹介した。

このフォーラムは、高校生による防災・復興活動の発表を通して、教育関係者や市民が防災教育と復興教育について考える機会とすることを目的に開かれた。当日は西和賀高等学校、宮古水産高等学校、大槌高等学校、釜石高等学校の4校が、各校における防災活動について発表した。

このうち大槌高校からは、3年生の阿部豊さんと伊藤凱さんが「学生の防災意識を高めるための避難訓練の在り方」をテーマに事例発表。具体的な避難訓練の日時や内容を事前に公表しない、生徒が考える避難訓練の内容を紹介した。

今回の訓練結果について、自分たちで考えて避難すること、周りを見てサポートするという、自助と共助の行動という成果が得られたとして、今後は避難所運営体験の実施も検討していると述べた。

釜石高校は、3年生の加藤祢音さんと山陰皇騎さんが登壇し「夢団がつなぐ未来～命を守る防災のバトン」と題して報告。3月に実施した能登研修や、能登高校との交流を通して、支援者側の意識に対する理解が深まったと話した。

発表する大槌高校の生徒

地域防災フォーラム

中長期キャリアの形成必要

国交省不動産・建設経済局 羽矢国際市場課長が抱負

国土交通省不動産・建設経済局の羽矢憲史国際市場課長＝写真＝が就任インタビューに応じ、2027年度に始まる育成就労制度について「外国人の中長期のキャリア形成につながる制度構築が必要だ」との考えを語った。

「帰国した外国人技術者・技能者とのネットワークを建設業の海外展開にも生かしたい」とも話した。

国交省は今年6月、技能実習に代わって27年度にスタートする育成就労制度について、建設分野の運用指針を議論する有識者検討会を立ち上げた。

羽矢氏は、建設分野の育成就労制度について「建設業の人手不足に正面から向き合い、受け入れ期間である3年間で技能を身に付けてもらう仕組みをつくる」と述べた。

「円滑、適正な外国人受け入れがまずは大事だ」との認識を示し、建設キャリアアップシステムの登録義務や、建設技能人材機構を通じた受け入れ支援など、建設分野の独自の措置を例に挙げ、「こうした措置を今後も両輪で進めることが重要だ」と続けた。

建設業の海外展開については「今後、人口減少が建設業の成長の制約になる恐れがある。海外展開は極めて重要だ」と述べた。

その上で、2030年までに年間45兆円の海外受注を目指すとしたインフラシステム海外展開戦略に触れ、「目標達成に貢献できるよう、日本企業と現地企業の関係構築やセミナー開催などの支援に力を入れたい」との意気込みを語った。

◇　◇

羽矢憲史氏（はや・けんじ）東京大学法学部卒。2000年4月旧運輸省採用。在米国日本大使館参事官、国交省国際統括室参事官、観光庁観光産業課長などを経て7月から現職。48歳、兵庫県出身。

28年愛知開催へ

組織委員会設立 技能五輪

中央職業能力開発協会と愛知県はこのほど、28年技能五輪国際大会日本組織委員会を設立し、都内で設立記念イベントを開いた。

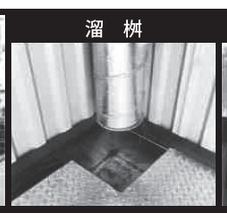
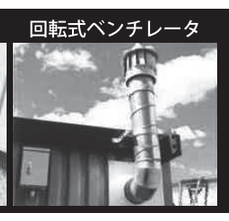
委員会の特別顧問として参加した福岡資麿厚生労働相は、「日本での開催は、若い世代をはじめ、多くの人に技能の素晴らしさや日本の優れた技能を伝える絶好の機会になる」と述べ、設立を祝った。

委員会の会長を務める、日本経済団体連合会の筒井義信会長は、「世界中の若者が高度な技能を競い合うとともに互いに学び合い、高め合う極めて意義深い大会だ。大会の成功に向けて全力で取り組む」と意気込んだ。

開催県となる愛知県の大村秀章知事は、「愛知県は、日本一のものづくり産業の集積地で、多くの技能者に支えられながら発展してきた」とした上で、「大会では、世界トップレベルのグレード、最先端のICT技術を駆使し、高揚感と感動を届けたい」と話した。

技能五輪国際大会は、職業訓練の振興と技能水準の向上、国際交流・親善を目的に、2年に一度開催されている。日本で開催されるのは、21年ぶり4度目となる。

開催時期は2028年11月16～19日の4日間で、メインの会場は愛知県国際展示場。他に約5万平方㍍の仮設会場を整備する予定だ。65の国・地域から、約1700人の選手が参加し、62職種で競う。目標来場者数は約30万人を目指す。


溜　桝

回転式ベンチレータ
設置・移設が簡単！
災害にも強い安心設計!!
販売・レンタル可能
少量危険物保管庫
プロテクトハウス
販売・レンタルのお問い合わせは TEL.019-614-0341
㈱備品レンタルセンター
http://www.bihin-rc.co.jp ★ info@bihin-rc.co.jp

技術は人を熱くする 設計・施工・メンテナンスまでトータルサポート
visit 訪問
survey 調査
plan 設計
presentation 提案
construction 施工
support 維持・補修
BEST PLANNING &SUPPORT by OYAMADA ENINEERING inc.
オヤマダエンジニアリングの強みは一貫した総合力。
エネルギーやコストの無駄を省き、お客様のあらゆるご要望や
条件に応じた最高のサービスをご提供いたします。
官公庁、民間企業の設備工事全般
ボイラ・空調・給排水衛生・揚水
および排水ポンプ他
省エネにつながるベストな提案
3D画面でわかりやすい提示

高い技術力による正確な施工
納品後も丁寧なメンテナンス
OYAMADA ENGINEERING オヤマダエンジニアリング株式会社
本　店　〒020-0839 盛岡市津志田南三丁目7番77号
TEL 019-613-7036　FAX 019-613-7037
流通センター　〒020-0891 紫波郡矢巾町流通センター南一丁目5番11号
事業所　TEL 019-638-1216　FAX 019-638-1931
秋田営業所　〒010-0946 秋田市川尻総社町7番5号
TEL 018-863-8570　FAX 018-863-8615
仙台営業所　〒984-0831 仙台市若林区沖野6丁目24番1号 七町プラザ101号
TEL 022-352-4331　FAX 022-352-4341